

学校教育目標	自らを律し、自ら行動する人間の育成 ～自律と自立～	経営理念	「育ち直し」「学び直し」の理念のもと、児童生徒の自律・自立を支援する。 ～この学校で学んでよかったですと思える学校づくり～ 『生きる力』(「自己指導能力」「学ぶ力」の育成・生徒指導の実践上の4つの視点に留意した生徒指導と学習指導の推進)
--------	------------------------------	------	--

項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	自己評価		評価	学校関係者評価	改善方策	
							達成度	評価				
学習指導	1	確かな学力の定着	わかる授業づくりの推進 【共感的な人間関係の育成】 【自己存在感の感受】	・UDを取り入れた授業(焦点化・視覚化・共有化・振り返りの工夫・ICTの活用)の徹底 ・児童生徒一人一人の実態に応じた個別最適な学びの推進	・児童生徒の意識調査「この教科の授業はよくわかります」の肯定的評価の割合	90%以上	89%	98.9%	A	・UDの観点(めあての提示、ICTでの視覚化など)を取り入れた授業づくりが実践されている。 ・TT体制により、個々の生徒に応じた手厚い支援が行われている。 ・校内通信の「もみじ通信」により、教職員間の指導方針や研究成果の共有が図られているのはとても良い。	アンケートで、在籍期間の長い生徒が「授業がよくわかる」の項目が低い理由を検証する必要がある。わかるようになったからさらにわかりやすく数値が下がっているのか、本当にわからないのかによって対応が変わってくる。該当生徒への個別ヒアリングを実施すると良いのではないか。	
					・児童生徒の意識調査「授業は、自分に合った内容・教え方などになっていた」の肯定的評価の割合	90%以上	94%	104.4%		・生徒の主体性、責任感、自己肯定感を育むため、授業で「自己決定」の機会が多く取り上げられている。 ・アンケート結果でも、ほぼ目標を達成しているため、生徒の主体性が定着しつつあるのではないかと思う。	「自己決定」の場面をさらに増やし、全教職員が共通認識で実践できるよう、授業や生活場面での導入事例を共有すると良いのではないか。	
生徒指導	2	社会に通用する生徒の育成	生徒理解に基づく指導の充実 【共感的な人間関係の育成】 【自己決定の場の提供】	・授業で自己決定の場を設け、主体的に学ぶ児童生徒を育成 ・自分の考えを持ち、共有化により自己的考えを広げ深め、発表する場の設定 ・学習での学力向上のための取組内容の明確化	・授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していった」の肯定的評価の割合	90%以上	82%	91.1%	A	・生徒の主体性、責任感、自己肯定感を育むため、授業で「自己決定」の機会が多く取り上げられている。 ・アンケート結果でも、ほぼ目標を達成しているため、生徒の主体性が定着しつつあるのではないかと思う。	「自己決定」の場面をさらに増やし、全教職員が共通認識で実践できるよう、授業や生活場面での導入事例を共有すると良いのではないか。	
					・児童生徒の意識調査「学校で宿題が出されたら忘れずにしています」の肯定的評価の割合	85%以上	87%	102.4%		・他者とのかかわりに課題があり在籍している児童生徒にとって、以前の自分と比べる個人内評価であれば学校教育活動や寮での集団生活においての肯定的評価は高くなる。また、自己評価のためそれぞれの認識の中での肯定的評価が高くなっている面もあると考えられる。周囲に言われたからするのではなく、自らの意思で周囲に対して感謝や思いやりの気持ちを持ち、自然とあいさつ、返事ができ、正しい言葉遣いができるようになります。	・「コグトレ」が学習成果や意欲にどう結びついているか、効果を測定・検証する指標を整備するといふと思う。 ・あいさつなどの生活面指導の定着度について、生徒の自己評価だけでなく、第三者による観察やループリック評価なども取り入れ、客観性を高めると良い。 ・体験活動の成果(回数、人数、時期など)を可視化できる評価指標を整備するべきである。	
信頼される学校	3	関係機関から信頼される教育活動の充実	広島学園職員から信頼される教育活動の推進	・一人一人の課題やニーズに応じた教育活動の充実 ・原籍校連絡協議会、懇談会の充実 ・原籍校、広島学園、学校による進路実現に向けた取組の充実	・学園職員の意識調査「学校職員は個の実態に応じた適切な課題提示をしている」の肯定的評価の割合	90%以上	100%	111.1%	B	・部活動においては、生徒全員が肯定的評価を行っている。これは競技の持つ魅力のみならず、「平日の部活動への複数の教員の参加」や「広島学園との連携による共同的な指導」のためと考えられる。教員の部活動の参加については曜日ごとの担当割合を行い、積極的参加につながっている。学園職員との連携については部活動会議に代表者が参加することにより、今後も部活動の充実を推進していく。	生徒の満足度・達成度が極めて高く、現行の運営が成果を上げていると思われる。広島学園との連携や複数教員による指導体制といった現行方針を継続してほしい。	
					・学園職員の意識調査「学校職員は児童生徒の発達を理解して指導している」の肯定的評価の割合	90%以上	81.8%	90.9%		・自立支援計画の共有や、学園職員を講師に招いた校内研修、カンファレンスへの参加など、連携強化に努めていると思う。 ・学園の職員と学校の先生たちが、お互いの立場をわかって一緒に働く(指導する)ことが大切と思う。 ・達成度値が低いから評価が2ではなく、目標値と比較して評価はどうか。	職員の間の認識のズレを解消するため、現在の取組に加え、より頻繁な情報交換を行い、相互理解をさらに深めてほしい。 ・夏休み等の長期休みの課題の量については、生徒の特性に応じた可変的なものも検討するとともに、解答の渡し方も、ページごとにするなど、工夫をしてほしい。	
業務改善や働き方	4	効果的な教育活動の充実	みんなが幸せになる「働き方改革」の推進	・業務の役割分担の見直しと適正化 ・「やりがい」を感じる教育実践の充実 ・教職員が意見を言いやすい組織風土の醸成	・勤務時間外の在校時間が月45時間・年間360時間未満の割合	95%以上	100%	105.3%	A	・勤務時間外の在校時間が目標を達成できていた。授業時数は多いが放課後等に時間を確保でき、期限内に業務を終えることができていると感じている教職員が多い。現在の取組を継続して行っていく。	・現状の取り組みを継続してほしい。 ・ただし、産休・育休などの代替要員の確保が困難な状況は現場の負担増に直結する課題であるため、市教委への加配要望の継続や、年度途中の生徒増にも対応できる柔軟な人員配置を働きかけてほしい。	
・教職員アンケート「子供と向き合う時間(授業準備等を含む)が確保できている」の肯定的評価の割合	95%以上	94.1%	99.1%	・勤務時間外の在校時間が目標を達成し、教員が「子供と向き合う時間(授業準備等を含む)が確保できている」の評価も目標に迫る値であり、業務改善が進んでいると思われる。	・現状の取り組みを継続してほしい。 ・ただし、産休・育休などの代替要員の確保が困難な状況は現場の負担増に直結する課題であるため、市教委への加配要望の継続や、年度途中の生徒増にも対応できる柔軟な人員配置を働きかけてほしい。							
※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。												
■自己評価												
4 ...目標を上回って達成						3 ...目標どおりに達成						
2 ...目標をやや下回って達成						1 ...目標をかなり下回って達成						
■学校関係者評価												
A ...とても適切である						B ...概ね適切である						
C ...あまり適切でない						D ...全く適切でない						